

## 講義

|      |  |      |    |      |    |
|------|--|------|----|------|----|
| 科目   | 成人看護概論   |      |    |      |    |
| 時間数  | 1単位30時間  | 授業方法 | 講義 | 授業時期 | 1年 |
| 講師名  | ※毛利智恵美   |      |    |      |    |
| 実務経験 | 看護師(医療機関)  |      |    |      |    |
| ねらい  | <p>「成人看護学」のスタートとなるこの講義では、まず、看護の対象である「人」の誕生から生涯を終えるまでを生涯発達の視点で概観し、「おとな」になること、「おとな」の生活の特徴を考える。次に、私達を取り巻く社会や環境に目を向け、健康を守るための保健医療福祉システムを理解する。(1章・2章)そして、社会や家庭で様々な役割と責任を持って生活している『おとな』である人と、良好な関係性を築くために必要な看護アプローチの基本を学ぶ(3章)。</p> <p>生活行動の中で、健康をおびやかす要因を知り、様々な健康状態(4章～11章)にあっても、その人にとっての健康を支援する看護について考える。</p> |      |    |      |    |
| 目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯発達の視点から『おとな』になること、『おとなの生活・暮らし』を理解する。</li> <li>2. 成人の健康行動を促す看護アプローチの基本を学ぶ。</li> <li>3. 健康生活をおびやかす要因を知り、看護にとっての「健康」の考え方を学ぶ。</li> <li>4. 健康状態に応じた看護の概要を理解する。</li> <li>5. 地域包括ケアシステムと療養の場の移行に伴う看護を理解する。</li> </ol>   |      |    |      |    |
| 回    | 内容   |      |    |      |    |
| 1    | ガイダンス — 成人看護学を学ぶにあたって—<br>1章 生涯発達の視点から現代社会の出来事や、『おとな』の生活を観る視点を持つ   |      |    |      |    |
| 2    | 生涯発達の特徴と発達課題 成人各期の生活と健康(青年期・壮年・中年期・向老期)  |      |    |      |    |
| 3    | 2章 A 1. 成人を取り巻く環境と生活の状況 人口構造からわかること <少子高齢化と課題>   |      |    |      |    |
| 4    | 2. 成人の健康の状況 生と死の動向と疾病構造の変化 平均寿命と健康寿命   |      |    |      |    |
| 5    | B1. 保健・医療・福祉に関わる施策 B2. 保健・医療・福祉システムの連携   |      |    |      |    |
| 6    | 3章 成人への看護アプローチの基本 A 1. 大人の健康行動<br>A 2. 行動変容を促進する看護アプローチ 行動変容と自己効力感・エンパワメント<br>B. 症状マネジメント C. 健康問題を持つ大人と看護師の人間関係  |      |    |      |    |
| 7    | 4章 ヘルスプロモーション(健康増進)と看護 主体的な健康づくりと地域社会の環境づくり  |      |    |      |    |
| 8    | 5章 健康をおびやかす要因と看護 「健康の定義」と健康バランスの構成要素   |      |    |      |    |
| 9    | 5章 健康をおびやかす要因と看護 ストレスコーピングと SOC (sense of coherence)   |      |    |      |    |
| 10   | 6章 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護(急性期にある人の看護)  |      |    |      |    |
| 11   | 7章 慢性病と共に生きる人を支える看護(慢性期にある人の看護)  |      |    |      |    |
| 12   | 8章 障害がある人の生活とリハビリテーション(障害がある人・急性期・回復期のリハビリテーション)   |      |    |      |    |
| 13   | 9章 人生の最期のときを支える看護(終末期にある人の看護)  |      |    |      |    |
| 14   | 10章 療養の場の移行支援 継続看護   |      |    |      |    |
| 15   | 終講テスト  |      |    |      |    |
| 評価方法 | <p>終講試験受験資格: 講義時間数の3分の2以上の出席者とする。</p> <p>筆記試験 : 60点以上を及第点とする。</p> <p>課題(レポート) : 指示された書式で記述する。内容不足の場合は、助言の上再提出を求める</p> <p>評価 : 課題の提出状況 及び 筆記試験の総合評価とする。</p>   |      |    |      |    |
| 教科書  | 系統看護学講座 専門 成人看護学総論 成人看護学(1) : 医学書院   |      |    |      |    |